

自主課題研究発表（対面）

要旨

第4日目：10月12日（日）

質的研究法を学ぶ会 12

～質的研究法を自らの研究・実践に活かす～

企画者（五十音順） 浅岡永理（麻布大学大学院）、井村礼恵（文教大学）、
大森和樹（東京農工大学大学院）、高橋宏之*（千葉市動物公園）、秦範子*
（都留文科大学）、浜泰一*（フリー）、*企画代表者

キーワード：質的研究、実践研究、若手研究支援、相互交流、リサーチク
エスション

質的研究を通して環境教育研究の発展に寄与できるように、様々な質的研究を深め、かつ、これから質的研究に取り組もうとする（若手）研究者の支援を通して、質的研究の「質」を高めていくことが本研究会の目的です。この自主課題研究も今回で12回目を迎えます。本研究会の活動が学会員のみなさまに質的研究の重要性を広く認識していただくきっかけとなり、質的研究に取り組もうとする研究者の増加につながってきたとすればたいへんありがたいことです。質的研究の広まりは環境教育研究のすそ野を広げることにもつながります。今回は、「質的研究法を学ぶ会」に参加してくださっているお二人から、本研究会から得たヒントをもとに、研究指導へ活かしている実践や、博士後期課程に進学し、博士論文に取り組んでいるお話を伺います。本研究会が、質的研究に取り組むみなさまの一助となれば幸いです。みなさまのご参加をお待ちしております。

1. 趣旨説明 高橋宏之（千葉市動物公園） (5分)
2. 発表 (2名、各15分+質疑5分)
 - ・井村礼恵（文教大学）「リサーチクエスションに着目した教育指導について」
 - ・大森和樹（東京農工大学大学院博士後期課程）「質的研究法を博士論文に活かす」
3. グループワーク
 - 各自の研究の課題や悩みを検討：各自の研究のリサーチクエスションとは (20分)
4. 各グループからの報告（ふりかえり） (10分)
5. おわりに（「質的研究法を学ぶ会」へのお誘い等） (5分)

※ 月に一度オンラインで研究会を開いています。問合せ先：htakahashi.czp@gmail.com

ヒッケル『資本主義の次に来る世界』を読む

：社会変革のために環境教育はなにができるのか

大倉茂(東京農工大学)・小野瀬剛志(仙台青葉学院短期大学)・中村和彦(東京大学)・秦範子(都留文科大学)

キーワード：社会変革、民主主義、資本主義、脱成長、エコロジー

本自主課題研究企画は、日本環境教育学会の研究分科会（研究会Cタイプ）「社会変革のための環境教育研究」における成果を会員の皆さまと共有することを目的としている。本分科会は、第35回年次大会（2024年8月）における自主課題研究「社会変革のための環境教育を考える」を経て、同年11月より原則月一回のオンラインでの定例研究会をここまで積み重ねてきた。そこでは、参加者の問題関心をゆっくりと共有する意味も込めて、テキストの輪読をすすめてきた。そこで、本企画では、そのなかでとりあげたジェイソン・ヒッケル『資本主義の次に来る世界』（東洋経済新報社、2023年）を改めて、本企画の参加者の皆さんと共に読むことを通して、社会変革のために環境教育になにができるのかについて議論したい。

環境教育だけでなく、現代社会の重要課題である環境危機に応答しようとする言説では、それぞれの立場からなんらかのかたちで社会変革の必要性を論じているように思われる。しかしながら、その変革すべき社会とはなにか、なにをもって変革とするか、それぞれのディシプリンでの権能と限界はなんなのか、そういった問いに対しては茫漠とした答えしか持ち合わせていないのが現状ではなかろうか。ここではそういった前提に立って、社会変革のために環境教育になにができるのかについてゆっくりと考えていきたい。こういった問いは必然的に、資本主義とどう向き合うべきか、資本主義の先に待っているのは脱成長なのか、そういった経済体制の移行の意志決定は民主主義的になされるのか、どういった社会がエコロジーに親和的なのだろうか、といった大きな問いにたどり着く。本企画ではこういった大きな問いに対して安易に細分化せずに、大きくゆっくり、しかし確実に迫っていきたい。

本企画では、上記4名で分担して、ヒッケル『資本主義の次に来る世界』の内容を、それぞれの考察をくわえながら、紹介することからはじめ、そののちに議論に移っていくことを計画している。

しかしながら、時間も限られており、当該文献の詳細を紹介するにはいたらない。したがって、本企画の参加者の皆さんにはぜひ当該文献をご一読いただいた上で、ご参加いただくことをお願いしたい。文献にそった地に足のついた議論が出来ることを望んでいる。

【自主課題研究】環境教育士研究会

板倉浩幸（淑徳大学）、降旗信一（東京農工大学）、
岡健吾（北翔大学）、山本理（大田区立大森第三小学校）

キーワード：環境教育、学校教育、社会教育、未来ビジョン、中期計画

2024年9月に公表した本学会の「未来ビジョン」に合わせ、具体化させるための中期計画の策定、その柱となる新規事業の立ち上げを行いたいとの考えに対し、2025年2月の環境教育学会北海道支部とえぞCONEとの合同フォーラムでの「未来ビジョンを受けて～北海道の環境教育のこれまでとこれから」において、降旗会長（当時）から、「社会変革を視野に入れた教育の促進－自然と人をつなぐ学びの深化－社会変革を視野に入れたプログラムの展開」として、『「環境教育士」というアイデア』が紹介されました。私たちはその考えに共感し、「環境教育士セミナー」を開催するための準備の話し合いを始め、「未来ビジョンおよび中期計画のワークショップ」として行うなどして環境教育士の可能性について論議を重ねました。詳しい経緯については口頭発表でもお知らせしましたが、「環境教育士研究会」として話し合ってきた内容をお伝えして、皆さんの意見をお聞きできればと考えます。

資料として、環境教育士研究会が認定する環境教育士の方に、環境教育士の理念、シ

- 1.発案者挨拶
- 2.ビジョン・ミッション
- 3.行動指針（活動編）
- 4.行動指針（あり方編）
- 5.私たちの5つの悪行（してはいけないこと）
- 6.一緒に活動したい人
- 7.キャリアアップ表
- 8.環境教育のミニマムスタンダード（環境教育促進法）
- 9.環境教育調査の方法
- 10.環境教育計画の方法
- 11.環境教育評価の方法
- 12.環境教育士（スタンダード）と
環境教育士（アドバンス）
- 13.「環境教育士の会」とピアレビュー

ステム、活動、ルールについて、確認するために各環境教育士に交付することを検討している「環境教育士 理念手帳」を紹介する予定です（目次図1）。

この「環境教育士 理念手帳」を原案として、参加していただいた皆様の意見を取り入れて、よりよい物としていきたいと考えます。

多くに皆様の参加をお待ちしています。

図1 環境教育士理念手帳 目次

木こりのドキュメンタリー映画「Forest Trail」

環境保全型・環境共存型林業の可能性を見る

菅山明美 (ハッピーエンジン・JEEF)・

吉田園佳 (Forest Trail 上映実行委員／キャリアコンサルタント)

キーワード 環境保全型林業 環境共存型林業 木こり ドキュメンタリー 北海道

ドキュメンタリー映画「Forest Trail」(文科省選定作品)

(監督 中村祐太 / 出演 足立成亮(林業家) 吉田凱(木こり/空師)は街の人間、仲介者として森へ寄り添い、そこに在る人々の生活、森とは何か林業とは何かを伝えていくために制作されました。

[映画「Forest Trail」公式サイト](#)

北海道の森で環境保全型林業を行う 2 人の木こりを 4 年間にわたって追ったドキュメンタリーです。できたてのドキュメンタリー映画ですが、今回はこちらで特別上映をさせていただき、その後、環境保全、環境共存型の林業と今後の林業についてディスカッションをする場を設けたいと思います。

見て頂いた人からは、林業や森への興味関心のきっかけになった、彼らが取り組む環境保全型・環境共存型の林業があることを始めて知ったといった感想を多くいただきます。映画を軸に認知や新たに施業を始める次世代の林業従事者や優しい森作りの誘致を考える山主が増えるといった事への可能性も制作サイドは感じています。

また林業そのものや山・森林という自然環境を改めて考える、人々が対話する機会を、今作品を通して創作できりという期待もしています。街で暮らす我々の周りには森から出て来た資源で溢れかえっている一方で、国土の 7 割を森林に囲まれた日本でもまだまだ林業や森の事が知られていない現状ですが、我々人と森林は自分たちが思うよりも遥かに密接に隣り合っていることを伝えていきたいというのが制作サイドの願いです。

タイムスケジュール

- | | |
|--|------|
| ① 主旨説明 狩野そのか (Forest Trail 上映実行委員) | 5 分 |
| ② 本編上映 | 30 分 |
| ③ 制作サイドから撮影時期や場所、人物に説明 | 15 分 |
| ③ ワークショップ形式でのディスカッション
ファシリテーター 菅山明美 (ハッピーエンジン・JEEF) | 45 分 |
| ④ まとめ | 10 分 |